辺野古土砂北九州

発行…2026 年10月号・№75



上の写真は 26 年９月５日の大浦湾。台風のため、櫓が一つ残るだけで、全ての船が避難して、静かな美しい海が戻っている。左は 25 年 12 月に同じ場所から撮った大浦湾。

≪目次≫

【沖縄】知事選雑感と辺野古の現状（宗吉信）…… 2 ページ
【沖縄】沖縄に通って闘う（田村裕司、鯨津憲司、竹下歩）…… 3 ページ
【沖縄】文子おばあのカジマヤー …… 8 ページ
【福岡】北九州空港でのキーンソード27 …… 9 ページ
【福岡】映画「東京上空300メートル」小倉昭和館上映 …… 10 ページ
【沖縄】PFAS は、やはり米軍基地からの流出だった …… 11 ページ

写真…竹下歩・田村裕司・鯨津憲司・宗吉信（敬称略）

発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

知事選雑感及び辺野古の現状
と
内地から沖縄に行き、闘う人たちの思い

世話人　　宗吉　信

■知事選は力負け

9 月上旬に辺野古に行ってきました。主に沖縄県知事選の応援が目的でした。残念な結果で、現地で感じたことは多々あったのですが、もう時間が経っているので、報告は少しだけにします。

圧倒的な動員力や資金力の差を感じました。主要道を車で走ると、幟を持って立つ人の数が、古謝玄太陣営は玉城デニー陣営の 10 倍ぐらいあったと思います。見かける選挙カーの数も大差がありました。更に、琉球新報や沖縄タイムスには、毎日日替わりで沖縄自民党の全面広告が載ります。どれだけ金を使っているのか・・・

■沖縄を孤立させたくない

10~30 代の若者の 7 割が古謝氏に投票したと言われていますから、今後も厳しい状況が続くでしょう。外来生物侵入防止条例が変えられたら、再び門司からの辺野古埋立土砂搬出が現実になるかもしれません。

沖縄の人たちは、これまでも多くの逆境を乗り越えてきたのですが、戦争や米軍占領を知る人の割合が減っています。80 年も基地の理不尽と闘ってきて、なお変わらない現実に疲れやあきらめが出るのも仕方ないことでしょう。今後も、沖縄の人たちが孤立感を感じないように、微力ながら現地に出向いて応援していく決意です。



福岡市から来たＵさん（83 歳）
那覇空港からこの幟を持ち、名護市辺野古まで歩いて来た
(クッション玄関前にて)

■台風で、また工事ストップ

この時期、台風が沖縄付近で停滞していたので、大浦湾で工事に携わる船の他、安和、塩川の沖合にいつも停泊・待機している船もみんな遠方に避難していました。軟弱地盤改良のため砂杭等を打ち込むサンドコンパクション(SCP)船は、3 隻が奄美に、残り 3 隻は何と広島県の呉まで避難しているそうです。ですから滞在中、安和も塩川も工事はストップ。一方キャンプシュワブゲートから入って、陸地の工事をするミキサー車やダンプ等は変わりなく、一日 3 回、計 450 台程が入って行きます。宮城島も、土砂積み出し船の係留岸壁がある石油備蓄基地に、土砂をある程度貯めておくことができるので、船がなくても二日間だけ工事がありました。それで選挙活動の合間に、一日だけ宮城島に行き、ゲート前の座り込みにも一日 1 回は参加していました。

昨年も SCP 船は半年避難して、杭打ち工事ができませんでしたが、今年も 5 月末から避難しており、当分戻って来られないでしょう。こんな状況で、辺野古新基地建設はいつ完成するか見通しも立ちません。古謝新知事が「普天間基地返還期日を明確にするよう政府に求めていく」と言っていますが、政府はどう答えるのでしょうか？

■沖縄に通い、闘う人たち

辺野古の民宿クッションに泊まっていると、全国から通ってくる人たちと出会い、それが楽しみの一つです。今回は、その中の 3 人の方に原稿を依頼しました。田村裕司さんは大阪から、よくご夫婦で来られます。湯布院の鯨津憲司さんはご存知の方も多いでしょうが、 実は北九州出身です。竹下歩さんは、沖縄通いから、ついに移住してしまった人です。同じようにはできないにしても、自分にできる形で現地に行ってみようという方が増えることを願っています。（むねよしまこと）

辺野古に通う
見てしまった以上、もう逃げられない

田村裕司（大阪府高槻市）

■ 地道に闘う仲間に会うために

9月、選挙の応援をかねて2週間辺野古に滞在。残念ながら知事選は敗れたが、名護市議選は応援した二人の候補が当選。二人は辺野古の海上行動を支えてくれる大切な人。3月の海の事故を理由に攻撃されてきた二人なので本当に嬉しい。帰阪する時、高速バスのバス停まで辺野古の宿『クッション』の主・I さんが送ってくれた。I さんは週に三度5時半に宿を出て安和に向かう。安和桟橋でダンプのカウント作業をするためだ。ガット船



名護市議会議員を４０年以上務めてこられた大城よしたみさんの辻立ち後の集合写真。右から二番目が田村さん、四番目がお連れ合いさん。左端が鯨津さん。右から三番目の人は、何と宗谷岬も近い、北海道名寄市から来られている。左から二番目の人は地元の女性、三番目の人は兵庫県西宮市から来る海上行動のカヌーメンバー

（連絡できず掲載の了解が取れなった人は顔を伏せています）

が積み込む土砂の量は、船につながるコンベアに何台のダンプが土砂を落とすかで推計する。その台数のカウントだ。アピールの横断幕も持参し国道沿いに貼りだす。宿を出る前に宿泊者の朝食も作って出発する。大変な労力だが、Iさんは自慢するでもなく愚痴も言わずに日々淡々と役割をこなしている。多くの人のこうした地道な努力によって辺野古や沖縄の闘いは支えられている。そんな人たちに会いたい気持ちもあり自分は辺野古に通っている。

■ 沖縄の現実に触れ、地元で立ちあがる

振り返ると自分が初めて沖縄を意識したのは1972年。鳥取県西部にある高校の1年生の時。ある日、若い女性の先生が授業の終わりに話し始めた。「今日で私の授業は終わりです…」「…！」。先生は沖縄の話を始めた。復帰のこと、沖縄戦や戦後の米軍支配で沖縄が踏みつけられてきたこと…。最後に「あなたたちは大人になって社会で指導的な立場に立つだろう。その時、踏みつけられる側の人のことを決して忘れないで。その人たちのことを考え行動する人になって欲しい」と言われた。そのUという名前の先生は沖縄出身者だったかもしれない。辞められる理由も分からなかった。

やがて京都の大学を出てその地で教職についた。修学旅行で生徒を何度か沖縄に連れて行ったことはある。組合員であったが沖縄について熱心に取り組んだわけではない。そんな自分が初めて「沖縄へ！」と思ったのは2014年。「オール沖縄」体制で選挙に勝利した沖縄に対し安倍政権は問答無用で辺野古の工事を強行。「許せない！」と思い2015年の春、職場の元同僚4人で沖縄へ。レンタカーで走る沖縄の街。一番良い場所はほとんど米軍基地。有刺鉄線のフェンスの中の広大な芝生と軍施設や住宅。一方フェンスの外は小さな家が斜面の上までぎっしり。「まだこんな状態なのか…」と驚いた。辺野古ゲート前や高江のテントも訪ねた。

同じ年の「戦争法」阻止の闘い。組合とは関係なく自分でチラシを作り、沖縄に行った仲間とターミナルや大学の前で宣伝。国会前集会にも参加。9月は勤務終了後すぐに新幹線で東京へ。集会後夜行バスで帰り早朝駅から学校へ直行、を何度か繰り返した。9月19日は本当に悔しかった。その頃初孫も誕生。「このままではアカン！」と、地域で市民運動を開始。赤旗の配達員の方と相談して 2016 年 2 月「磐手九条の会」を立ち上げた。憲法や時々の悪法のほか辺野古や沖縄について何度も例会で取りあげてきた。市内の他の九条の会と連携し大きな集会を持つようになった。今年は10月に布施祐仁さんの講演と呉羽真弓さんの祝園弾薬庫の現状報告の集会を企画している。



辺野古・松田ヌ浜で出航準備→

■ 退職し、辺野古の海上行動へ通う

海上行動参加は2017年から。3月に退職し4月に辺野古へ。23日の日曜日、辺野古・松田ヌ浜のカヌー教室に参加。川下りカヌーの経験もあり即日合格。翌日初めて大浦湾へ。そして25日。海保や警備会社



（左）カヌー上から抗議

できるのはカヌーならでは

（右）大浦湾での工事。近くで監視



の船が多数警備し、海保保安官、軍警や警備会社の警備員が監視する中、目の前で大浦湾の海岸に初めて砕石の袋が投下された。「見てしまった以上、もう逃げられない」と覚悟した。以後2，3か月に一度辺野古に通い海上行動に参加してきた。海に出られない時はゲート前や安和・塩川、宮城島に通い、座り込みや牛歩の闘いに参加した。

海上やゲート前のようすは、京都・三条河原町で毎週土曜・夕刻に行う辺野古の定例街宣「京都行動」で報告する。毎月地域で行う「9の日行動」や「19日行動」でも報告している。遺骨の混じる土砂を埋め立てに使わせないため、有志の仲間で街宣し署名を集め市議会で意見書をあげる運動にも取り組んだ。

海の上の大事故で海上行動は停止。事故の事実経過と原因が明らかにされ、遺族の方への謝罪と法的責任が果たされることを望んでいる。カヌーの海上行動はできないかもしれないが船の監視活動は復活してほしい。海上行動があろうがなかろうが、理不尽な辺野古新基地建設が止まらない限り、現地で抗う人の輪に自分も加わり続けたいと思っている。（たむらゆうじ）

権力の暴挙が沖縄と湯布院を結び付けた！

―沖縄に通うことを自らの課題として―

鯨津憲司（ローカルネット大分・日出生台＋湯布院ミサイル問題ネット）

■転居した家に砲撃の音が

2002 年 10 月私は福岡から大分県湯布院へ移住した。湯布院郊外の日出生台演習場では1999 年から沖縄駐留米海兵隊の移転砲撃訓練が強行されていた。湯布院に来て驚いたことには、転居した家に砲撃の音がしてくるではないか。湯布院の町と日出生台演習場が想像以上に近いことを思い知らされた。何の説明もしなかった不動産屋を恨んだ。移住から 1 か月後の 11 月にあった日米共同訓練（注：米軍単独の移転訓練とは別）に対しては、個人的恨みを含めて反対行動に参加した。


日出生台演習場前抗議集会

■湯布院と沖縄との結び付き

1996 年の SACO 合意によって「沖縄の負担軽減のため」として日出生台が移転訓練場の一つに挙げられた。それ以来、湯布院では 30 年間、脈々と反対運動が続けられてきた。運動の早い段階から沖縄で反基地の闘いを担ってきた人々との結びつきができ、湯布院での集会や講演などに度々来ていただいた。湯布院からも沖縄を訪れ、基地の実態を知り、先進的な運動を学んだ。民意に反し、住民生活を犠牲にする日米政府の横暴が期せずして沖縄と湯布院を結び付けたと言えるだろう。

当初湯布院の反対運動メンバーの中には、ためらいがあったという。移転訓練に反対することは、沖縄の痛みを分かち合うことを拒否するのではないかということだった。彼らは、沖縄から来てくれた山城博治さんや高里鈴代さんが「痛みは分かち合うのではなく、なくすことだ」と語るのを聞いて胸のつかえが消える思いがしたという。

■自らの課題として沖縄へ

SACO 合意のもう一つの重要な柱である普天間返還の移設先が辺野古とされたことで、沖縄では辺野古新基地問題が年々クローズアップされていた。「沖縄の負担」「沖縄の痛み」は重く強くなってきたのだった。沖縄に基地負担を押し付け、そこから生じる不条理を強いる日本。沖縄の痛みは日本人総てが避けて通れない課題として突き付けられているのだった。新基地の陸上工事の動きが出てきた 2014 年からはシュワブ・ゲート前の座り込みが始まった。痛みを共になくすと言っても、沖縄の人々の痛みは湯布院住民とは比較にならないほど重い。私は自らの課題として沖縄現地の闘いにどのように応じることができるか考え始めていた。そのような時、伊波洋一さんが湯布院に来てくださり、話を聞く機会を得た。それが直接のきっかけとなって、2015 年 4 月に初めて辺野古現地の行動に参加した。それから辺野古、高江の現地行動に年 4 回、それぞれ 1 週間程度参加することを自らにノルマとして課してきた。

■ミサイル問題でも沖縄と共に



湯布院駐屯地前で第８ミサイル連隊配備に対する、抗議声明を読み上げる鯨津さん

自衛隊の「南西シフト」が現実となり、再び沖縄の戦場化が恐れられる中で、2024 年 3 月には九州・琉球弧の全ての地対艦ミサイル部隊を指揮する司令塔の第 2 特科団本部が湯布院駐屯地に新編された。同じ日に沖縄うるま市の勝連分屯地に第 7 地対艦ミサイル連隊が配備された。そして、翌 25 年 3 月には第 8 地対艦ミサイル連隊が湯布院に配備された。これらの部隊にはいずれ中国まで到達する長距離ミサイルが配備されるだろう。またしても政府の横暴が期せ

ずして沖縄と湯布院を結び付けることになった。

この新たな事態は私にとっては、足元に火が付いたことになる。私の生活圏での軍拡・戦争準備の動きに対抗することは避けて通れない優先的課題となった。2024 年からは沖縄現地に通う回数を年 2 回にせざるを得ず、もどかしい思いである。今は、権力から押し付けられた状況を逆手に取って、ミサイル問題でも沖縄との結びつきをつくり、強めていかねばと思いを新たにしている。（ときつけんじ）

沖縄に移住して闘う
出会った新たな仲間から力を得ながら

竹下　歩（沖縄県宜野座村）

■神戸から沖縄へ

私は教師退職を機に、今年 5 月に神戸から沖縄に、辺野古新基地建設に反対するために移住しました。政府の沖縄への不条理（米政府や米軍への配慮を優先し、沖縄県民の生活や人権を蔑ろにしていること等）に怒りを感じ、10 年ほど前から休業日に沖縄で、辺野古新基地建設反対運動や選挙活動（玉城デニー候補の応援等）を続けてきました。

政府は沖縄を、台湾有事によって引き起こされる戦争の最前線にすることを想定して軍事拡大を進めています（辺野古新基地建設以外の軍事施設建設等）。その多くは本土の人々には知らされていません。戦争に繋がる全てのことに抗っていくことを、私の第二の人生の生きがいにすることを決意しました。

■仲間が広がり充実した生活へ

移住してから 4 カ月半、辺野古での座り込み塩川・安和・宮城島での牛歩、八重岳通信施設建設の抗議行動等で、たくさんの仲間と知り合い活動範囲も広がりました。また、県知事選挙中の玉城デニー候補の応援活動の中で、私が住んでいる宜野座村の方々とも繋がりが生まれ、さらに充実した生活が送れるようになりました。



シュワブゲート前で抗議する竹下さん

残念ながら玉城デニー候補は敗れ、今後さらに高市政権の沖縄への軍事拡大・推進や不条理な姿勢、沖縄を蔑ろにする国民の風潮や雰囲気（デマや誹謗中傷等）が勢いを増してくるでしょう。それでも私は負けません。『戦争反対』を貫くため気持ちを切り替え、また辺野古新基地

建設反対運動を、仲間と共に頑張っていこうと思います。

■思いのある方は沖縄に足を運んで！

不条理を強行する政府と闘うとき、仲間は大きな力となります。（例えば、一人で牛歩や座り込みをするのは心細いが、二人ですると心強くなる。昼食を共にすることで楽しく会話し絆が深まる。抗議行動や集会等の情報を得て活動範囲が広がる等）今まで何度も挫けそうになりましたが、私は仲間のおかげで乗り越えてきました。『戦争は絶対に嫌だ。』『沖縄戦を二度と起こさせたくない。』という思いのある方々、是非沖縄に足を運んで私たちと一緒に活動していただきたいです。そのような心ある方々と連帯していくことは、政府（権力）と闘う上で大きな力になります。よろしくお願いいたします。（たけしたあゆみ）

10月21日 文子おばあのカジマヤー

～97 歳を祝う沖縄の伝統行事～



↑

三上智恵監督のインスタグラムより

島袋文子さん。筆者にとっては“伝説の人”です。

今年 97 歳!!ずっと辺野古新基地反対運動の先頭に立って来られましたが、今は施設に入って、毎日ゲート前に通うことはできないそうです。

9月6日、映画監督の三上智恵氏の呼びかけで開かれた「辺野古30年の歩みと沖縄の未来」というイベントに元気な姿を見せ、しっかりとした語りも聞かせてくれました。（下の写真）

今回、ゲート前テントで盛大にお祝いできることは、みんなの喜びです。

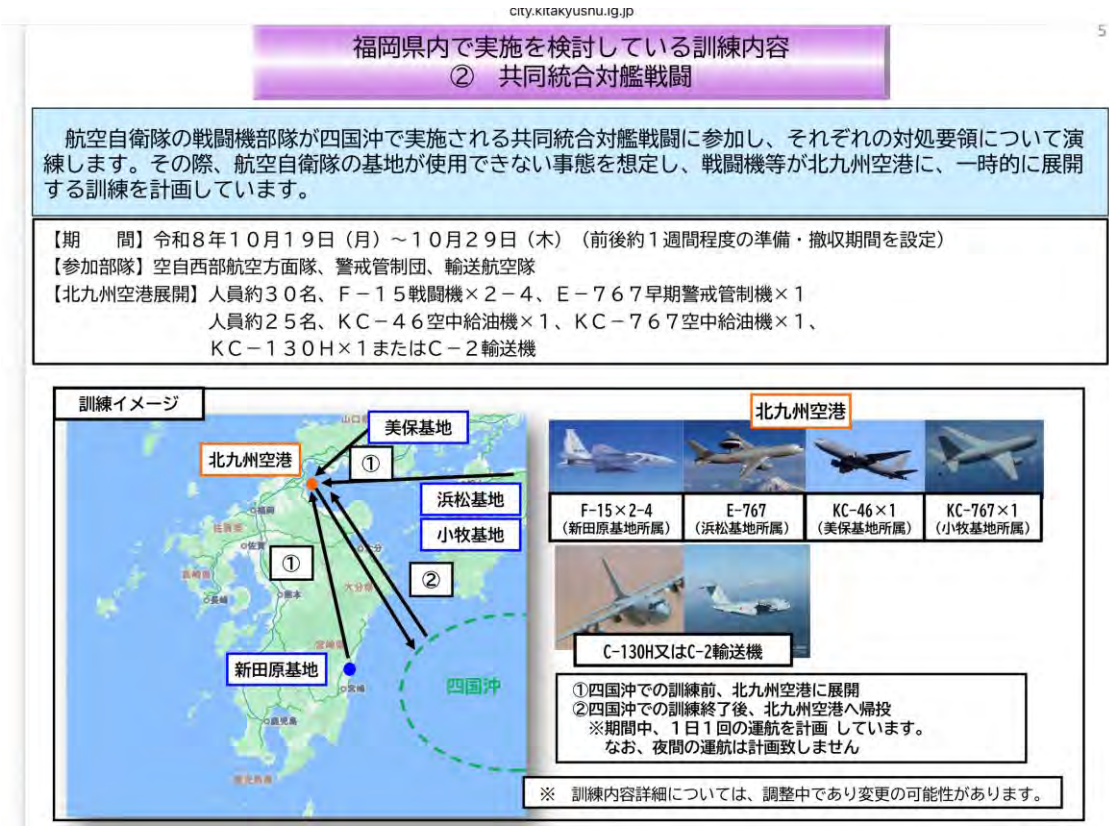


日米共同統合演習 キーンソード 27 が
北九州空港でも毎日（26 年 10 月 19 日～29 日）

既に会報でも何度か取り上げましたが、北九州空港は 2024 年 4 月から「**特定利用空港**」として、自衛隊や海上保安庁が平時から訓練で使用し、有事の際に円滑に使用できるようにするとされています。25 年のキーンソードで自衛隊機の着陸・給油訓練、26 年には築城基地所属の戦闘機によるタッチ・アンド・ゴー訓練が行われました。そして今回は、F15 戦闘機をはじめ 6 機種もの訓練が、計画されています。訓練内容が毎年、段々とエスカレートしています。このままでは、近いうちに民間機の飛行を遮っての訓練まで進むかもしれません。

今回のキーンソードは、南西諸島（特に与那国島、石垣島、宮古島）に米軍のミサイルシステムが配備される、熊本の健軍駐屯地に配備されている長射程ミサイルを長崎県・佐賀県にまたがる大野原演習場に展開する等、訓練内容が中国との緊張をますます高める内容になっていることも問題です。

下は北九州市のホームページから



日本の航空法を無視する米軍特権を問う映画

「東京上空 300 メートル」

10 月 17 日～23 日 小倉昭和館で上映

■東京のど真ん中に米軍基地

東京のど真ん中、港区麻布に米軍基地があり、そのヘリポートに米軍の横田基地や厚木基地から、大統領をはじめとする米国要人が、日本の空港を通らず、直接都心に乗り入れているということは、ご存知の方も多いと思います。日常的にもアメリカではできない、都市部での低空飛行訓練として飛んでいます。その際、日本の航空法で定められている最低安全高度「上空 300 メートル」を、日米地位協定の特例法により、米軍機は下回って建物すれすれを飛ぶこともあり、安全性や騒音などの問題を引き起こしています。

■日米地位協定がもたらす問題

毎日新聞が 2020 年に企画した調査報道「特権を問う」では、日米地位協定による米軍特権の実態に迫りました。この映画は、その報道内容をベースに、日米密約、米兵による性暴力や基地問題を描きます。



私たちは、米軍にこの特権を与えているのは誰か、そしてそれを支えているのは何か、この映画を見て考える必要があると思います。



沖縄タイムスと朝日 PFAS 問題報道の格差



沖縄タイムス

米軍、基地汚染源認める

PFAS 日本政府 公表せず

23年に嘉手納と普天間

米軍嘉手納基地と普天間飛行場の周辺の有機フッ素化合物（PFAS）汚染を巡り、在日米軍が2023年12月に両基地が汚染源だと日本政府に認めていたことが分かった。公表しても構わないとの見解も示したが、日本政府は米軍が認めたことを隠していた。米軍は自軍の飲料水に影響がないことを理由に県が求めていた基地内の立ち入り申請を拒否。日本政府は立ち入り申請拒否のみを公表していた。

（社会部・堂入雄一郎）＝23面に関連

政府関係者によると、米軍は23年12月の日米協議で県が求める基地内への立ち入り調査の申請に対する回答として、立ち入りを認めないとした。その上で、嘉手納基地と普天間飛行場内の消火訓練場から地下にPFASが浸透したとの認識を示した。

立ち入りを認めない理由に基地の管理権を定める日米地位協定7条を示し、「汚染源の対策は国が責任を持つべきだ」と主張。在日米軍の水の安全は確保できたとして協議の終了を求めた。

また、政府関係者は国防総省が16年時点で在日米軍に沖縄のPFAS問題について対応を指示していたことを認識していた。

防衛省は昨年12月、23年12月の米軍の回答を公表したが、米軍が汚染源



1　14版　2026年（令和8年）9月9日（水）

米軍、PFAS汚染源認める

23年に 嘉手納・普天間周辺

日本政府 公表せず

沖縄県内の米軍基地周辺で発がん性が指摘される有機フッ素化合物（総称PFAS）が高濃度で検出されている問題で、在日米軍が2023年、米軍嘉手納基地（沖縄市、嘉手納町など）と普天間飛行場（宜野湾市）について汚染源の可能性が高いと、日本政府に認めていたことが政府関係者への取材でわかった。

政府関係者によると、在日米軍は23年12月、嘉手納基地と普天間飛行場の消火訓練施設で、PFASを含む泡消火剤を使っていたことなどが汚染源となった可能性が高いとの認識を日本政府に示した。汚染源特定のため県が申請している基地内の立ち入り調査は、認められないと回答した。

防衛省は25年12月、米側の回答を公表。基地内への立ち入りを許可するための要件として、「サンプル調査の結果を日米双方が適切に評価できる環境基準」や「米軍施設・区域が汚染源であること」を示す科学的根拠が明確なサンプル調査のデータ」が必要としたうえで、県の申請には示されていなかったため不許可にしたとしていた。ただ米軍側が、基地が汚染源の可能性が高いと認めたことは公表しなかった。

県が16年以降、実施した調査で、嘉手納基地や普天間飛行場周辺で高濃度のPFASが継続的に検出された。基地では以前から泡消火剤が使われており、県は「基地が汚染源である蓋然性が高い」と主張してきた。

木原稔官房長官は8日の記者会見で、「米側とのやりとりの詳細については、米側との関係もあって、お答えは差し控えている」とし、「米側から回答は、防衛省から県に示した通りだ」と述べた。（豊辺信）

PFAS問題の最新記事や解説などを特集ページからご覧になれます

↑沖縄タイムス　朝日新聞←

沖縄の嘉手納基地や普天間基地周辺の PFAS 汚染源は、やっぱり米軍基地でした。

米軍は 2023 年にそのことを日本政府に認め、さらに公表しても構わないとの見解を示したのに、日本政府は公表せず、米軍が認めていたことを隠していました。このことは日本政府が国民、特に沖縄の人たちよりも米軍に忖度し、国民を欺いてきた一例として、とても重大なことだと思います。

読みにくいと思いますが、沖縄タイムスはそのことを書いています。一方の朝日新聞は、米軍が公表しても構わないとしていたことには触れていません。

日米地位協定では、米軍に原状回復の義務がないので、汚染された水は沖縄県の予算で浄化措置が取られています。基地を押し付けている日本政府が本来責任を持つべきことですよね。

≪辺野古土砂北九州・今後の予定≫

●10 月 24 日(土)…≪小倉駅前街頭宣伝≫16:00～
●10 月28日(水)…≪世話人会≫14 時～　生涯学習総合センター・情報学習室
●11 月 11 日(水)…≪会報発送作業≫14 時～　生涯学習総合センター・情報学習室
●11 月 25日(水)…≪世話人会≫14 時～　生涯学習総合センター・情報学習室
●11 月 28 日(土)…≪小倉駅前街頭宣伝≫16:00～
●12月　2日(水)…≪会報発送作業≫14 時～　生涯学習総合センター・情報学習室

朝夕はひんやりするくらい涼しくなってきました。彼岸花が大好きで、毎年それこそお彼岸の時期に咲くのが楽しみでした。ところが近年、異常気象のためか、彼岸花も咲く時期に迷いがあるようです。今年は、お彼岸の前から咲いている所もありましたが、10 月になっても咲き誇っている所があります。峠近くのあぜ道に一斉に咲く光景は見事ですよね。

今回、初めての会報編集でした。やってみて、これをずっと一人でやってきた事務局長の大変さが身に沁みました。内容の不十分さや不適切なところは、今後改めていきたいと思いますので、ご意見あれば聞かせてください。（m）



「辺野古土砂ストップ北九州」への入会は

年会費(個人 1000 円・団体 3000 円)です。

カンパ熱烈大歓迎!

【辺野古土砂北九州の口座は】ゆうちょ銀行　　記号番号　01700-7-166911
【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行　当座　一七九店　0166911
加入者名…「辺野古土砂ストップ北九州」
【財政・入会・退会に関するお問い合わせは】
090-4482-0043 大野保徳(財政担当)まで。



※領収書は、現金で会費をいただいた方のみお送りし、振り込みの方にはお送りしていません。ご了承下さい。

≪辺野古土砂ストップ北九州≫

八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂 090-6299-2608
※住所は封筒に記載しています

2026 年 10 月 7 日発行